

問題1 バネ定数 k のバネの一端に質量 m のおもりを付け、摩擦のない滑らかな机の上に置いて、他端を固定する。

(1-1) おもりの運動方程式を立てよ。

バネが自然長（伸びも縮みもないときの長さ）のときのおもりの位置を $x = 0$ とすると、バネがおもりに及ぼす力は $-kx$ と書けるので、運動方程式は

$$m \frac{d^2x}{dt^2} = -kx$$

となる。

(1-2) 指数関数型の解 $x(t) = e^{\lambda t}$ を仮定し、 λ に対する方程式を導け。

$x(t) = e^{\lambda t}$ を運動方程式に代入すると、

$$m\lambda^2 e^{\lambda t} = -k e^{\lambda t},$$

$$m\lambda^2 = -k$$

と、 λ に対する二次方程式が得られる。

(1-3) 上で求めた方程式から λ を決定し、一般解を求めよ。

上で求めた二次方程式を解くと、

$$\lambda = \pm i \sqrt{\frac{k}{m}} = \pm i\omega$$

となる。ただし、 $\omega = \sqrt{\frac{k}{m}}$ とおいた。

これを $x(t) = e^{\lambda t}$ に代入して、二つの基本解 $x(t) = e^{i\omega t}$, $e^{-i\omega t}$ が得られる。

よって、一般解はこれらの線形結合で、

$$\begin{aligned} x(t) &= Ae^{i\omega t} + Be^{-i\omega t} \\ &= A(\cos \omega t + i \sin \omega t) + B(\cos \omega t - i \sin \omega t) \\ &= (A + B) \cos \omega t + i(A - B) \sin \omega t \\ &= C \cos \omega t + D \sin \omega t \end{aligned}$$

となる。ただし、 $C = A + B$, $D = i(A - B)$ とおいた。

(1-4) バネに初速度 v_0 を与えた時、その後のおもりの運動を決定せよ。

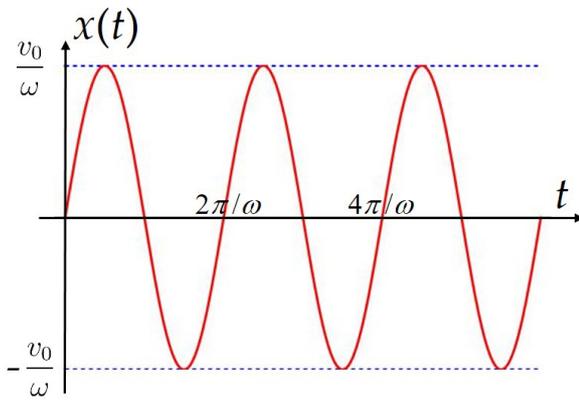
初期条件は、 $x(0) = 0$, $v(0) = v_0$ となる。よって、 $0 = C \cos 0 + D \sin 0 = C$ より、 $C = 0$ を得る。また、 $v(t) = x'(t) = D\omega \cos \omega t$ より、 $v_0 = D\omega \cos 0 = D\omega$ より、 $D = \frac{v_0}{\omega}$ を得る。

したがって、

$$x(t) = \frac{v_0}{\omega} \sin \omega t$$

となる。

(1-5) 上の結果をグラフに表せ．



摩擦がないので減衰することなく永遠に振動を続ける．

問題 2 バネ定数 k のバネの一端に質量 m のおもりを付け、他端を固定する．おもりが机の上を動く際に、速度に比例した摩擦力が働くとし、比例定数を γ とする．

(2-1) おもりの運動方程式を立てよ．

バネが自然長（伸びも縮みもないときの長さ）のときのおもりの位置を $x = 0$ とすると、バネがおもりに及ぼす力は $-kx$ ，おもりに働く摩擦力は $-\gamma v$ と書けるので、運動方程式は

$$m \frac{d^2 x}{dt^2} = -kx - \gamma \frac{dx}{dt}$$

となる．

(2-2) 指数関数型の解 $x(t) = e^{\lambda t}$ を仮定し、 λ に対する方程式を導け．

$x(t) = e^{\lambda t}$ を運動方程式に代入すると、

$$m\lambda^2 e^{\lambda t} = -k e^{\lambda t} - \gamma \lambda e^{\lambda t},$$

$$m\lambda^2 + \gamma\lambda + k = 0$$

と、 λ に対する二次方程式が得られる．

(2-3) バネに初速度 v_0 を与えた時、その後のおもりの運動を決定せよ．摩擦が十分に小さいときと大きいときで、場合分けすること．

式を綺麗にするため、 $\beta = \frac{\gamma}{2m}$ 、 $\omega = \sqrt{\frac{k}{m}}$ を導入すると、特性方程式は

$$\lambda^2 + 2\beta\lambda + \omega^2 = 0$$

となる．これを解くと、

$$\lambda = -\beta \pm \sqrt{\beta^2 - \omega^2}$$

となる．

(1) 摩擦が小さいとき ($\beta < \omega$)

このとき、 $\omega^2 - \beta^2 > 0$ より、 $\omega_0 = \sqrt{\omega^2 - \beta^2}$ とおくと、 $\lambda = -\beta \pm i\omega_0$ となり、一般解は

$$x(t) = Ae^{(-\beta+i\omega_0)t} + Be^{(-\beta-i\omega_0)t} = e^{-\beta t}(Ae^{i\omega_0 t} + Be^{-i\omega_0 t}) = e^{-\beta t}(C \cos \omega_0 t + D \sin \omega_0 t)$$

となる．ただし、 $C = A + B$ 、 $D = i(A - B)$ とおいた．

初期条件は, $x(0) = 0, v(0) = v_0$ となる. よって, $0 = x(0) = C$ を得る. また,

$$v(t) = x'(t) = e^{-\beta t}(\omega_0 D \cos \omega_0 t - \beta D \sin \omega_0 t)$$

より,

$$v_0 = v(0) = \omega_0 D$$

なので,

$$C = 0 \quad D = \frac{v_0}{\omega_0}$$

を得る.
したがって,

$$x(t) = \frac{v_0}{\omega_0} e^{-\beta t} \sin \omega_0 t$$

となる.

(2) 摩擦が大きいとき ($\beta > \omega$)

このとき, $\beta^2 - \omega^2 > 0$ より, $\omega_0 = \sqrt{\beta^2 - \omega^2}$ とおくと, $\lambda = -\beta \pm \omega_0$ となり, 一般解は

$$x(t) = Ae^{(-\beta+\omega_0)t} + Be^{(-\beta-\omega_0)t} = e^{-\beta t}(Ae^{\omega_0 t} + Be^{-\omega_0 t})$$

となる.

初期条件は, $x(0) = 0, v(0) = v_0$ となる. よって, $0 = x(0) = A + B$ を得る. また,

$$v(t) = x'(t) = e^{-\beta t}\{(-\beta + \omega_0)Ae^{\omega_0 t} + (-\beta - \omega_0)Be^{-\omega_0 t}\}$$

より,

$$v_0 = v(0) = (-\beta + \omega_0)A + (-\beta - \omega_0)B = (-\beta + \omega_0)A + (-\beta - \omega_0)(-A) = 2\omega_0 A$$

なので,

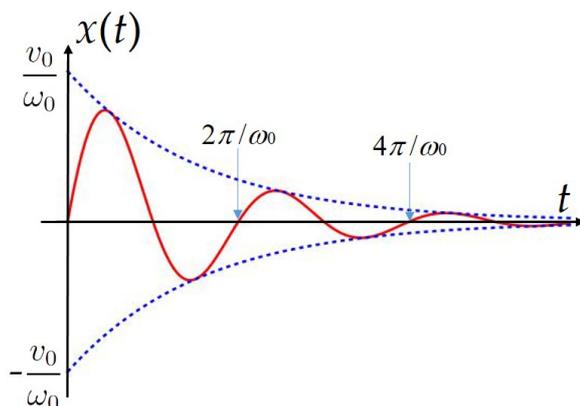
$$A = -B = \frac{v_0}{2\omega_0}$$

を得る.
したがって,

$$x(t) = \frac{v_0}{2\omega_0} e^{-\beta t} (e^{\omega_0 t} - e^{-\omega_0 t})$$

となる.

(2-4) 摩擦が十分に小さいとき, 上の結果をグラフに表せ.



微小な摩擦力によって減衰振動が起こる。